

会誌目次

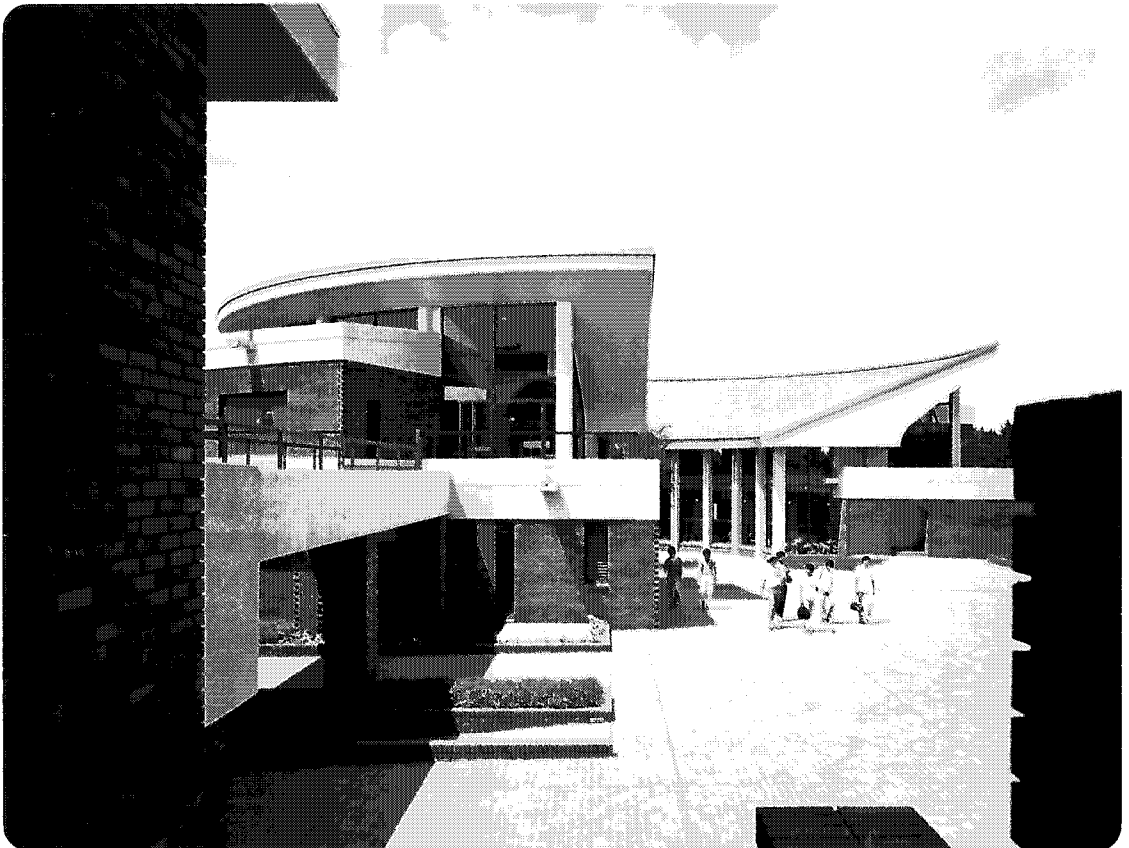
桜工

日本大学工科校友会

No. 61 1980

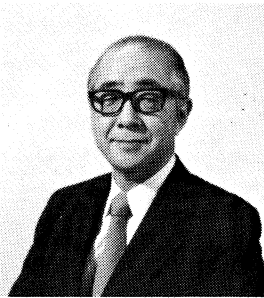
「巻頭言」	……会長挨拶	……辰村 米吉	… 2	
プラザ習志野(食堂棟)	建築業協会賞・受賞	…近江 栄	… 2	
「特集」	…同窓親子二代	(1)あとなつぎ	…酒井佐武郎	… 3
	……	(2)師弟の間柄	…黒瀬 元雄	… 4
	……	(3)座右の銘	…富岡 武雄	… 4
	……	(4)共通の話題	…佐藤 俊一	… 4
	……	(5)日大に望む	…植松 喜稔	… 5
高工土木科(昭4)卒業50周年クラス会	…大橋喜与司		… 5	
部会だより	……土木・建築		… 6	
	……	機械・電気	… 7	
	……	化学・薬学	… 8	
	……	数学・物理	… 10	
学科教室だより	……海洋建築		… 10	
	……	電子工学	… 11	
地方支部だより	……北海道・山形県		… 12	
	……	愛媛県・熊本県	… 13	
職域支部だより	……東京都建設桜工会		… 14	
本会関係記事	……事務局		… 14	
正会員終身会費54年度納入者	……		… 17	
地方支部職域支部一覧表	……		… 19	

日本大学理工学部 プラザ習志野(食堂棟)



建築面積 3,818 m² 3棟各2層

「巻頭言」



御挨拶

会長 辰村米吉

会員の皆様には益々御健勝のことと存じ心からお慶び申し上げます。

工科校友会も卒業生総数が10万人を超えて参りました。この盛況は誠によるこばしいことであります。本年は理工学部が創設60周年を迎えます。又、同時に短期大学部が30周年を迎える年であります。

記念事業として史誌の発行が計画されており、記念行事も余り盛大に過ぎないように配慮され乍らも準備が進んでいると聞いております。

日本大学創立90周年記念行事の一環として、史跡公園「顕義園」の開園式が昨年9月30日に盛大に行われました。この顕義園は日本大学の創立者の山田顕義先生の出身地、山口県萩市に設けられたもので、山田先生の功績をたたえ創立90周年を祝うものであります。

更に創立90周年記念事業の最大の事業として建設される総合センターが正式名称を「日本大学会館」と決定され、昨年11月21日に地鎮祭が行われ、完成が57年6月の予定で着工されました。

場所は国電市ヶ谷駅の近くで敷地面積約1000坪、建築延面積約5500坪で、地下2階、地上9階建。2階に大ホールが出来、3階以上は大学本部に使われます。大ホールは同時通訳の設備を持つ会議室(440名収容)として、或は講堂(650名収容)等に使用できるものです。3階に本部校友会の部屋も設けられます。この会館の設計は理工学研究所の手によるもので、その出来ばえが期待されます。

一方、90周年記念事業の募金の状況は、校友会関係で初年度は6億2千万円の目標でありましたが、昨年末現在で、1億5千万円余りで、目標は大きく下廻りましたが、多大の御協力を賜りました校友には募金委員会に代りまして、あつく御礼を申し上げます次第であります。

この90周年記念事業募金は校友会関係では一口3万円で3年間に亘ってお願いをするもので、今後、更に絶大なる御協力をお願い申し上げます。

唯、昨年9月4日に予定されておりました90周年記念式典は先般発生した入学に関する不祥事によって中止となったことは誠に残念なことであります。

その後、大学が適時適切な処置をとられたこと、

及び記念式典を中止されたことは、再発防止と信用回復に対する固い決意の表われであると存じ、一連の御処置を高く評価されるのは当然であると存じます。

1980年代は、日本大学にとって創立100周年をめざし、来るべき21世紀への大学づくりの基礎を固める年代として、大変重要な年代である、と、鈴木総長は云っておられます。

又、加藤理工学部長は、理工学部にとっての80年代は新設三学科をはじめとする内容の充実をはかる年代としたいと云われ、薬学科の学部昇格、クウェイト大学との交流を進めたい、と云っておられます。

我国最大の総合大学としての特性を生かした、独自の方向性とたゆまぬ変革への努力が必要であるように存じますが、それにも増して大切なのは、名譽にも日本を代表する日本大学となるためには、愛校心の高揚こそ大学の発展の基になるのではないかと存じます。

大学は学生と教職と卒業生によって成り立っていると、よく云われるのは加藤理工学部長の言葉ですが、その意味あいから大学のますますの発展を祈念することは勿論であります。特に、校友の皆様の益々の御活躍と御繁栄を末尾ではありますが心から祈念申し上げ、更に工科校友会の発展に格段の御協力をお願い申し上げて挨拶といたします。

プラザ習志野(食堂棟)

建築業協会賞の受賞について

近江 栄

日本大学キャンパスでは初受賞(B.C.S)の理工学部習志野プラザ(食堂棟)が1959年度、建築業協会(B.C.S)賞を受け、施主・日本大学理工学部、設計・日本大学理工学研究所、施工・大成建設株式会社の三者がそれぞれ表彰された。

B.C.S賞は、すでに20年の歴史を経ている権威ある賞で、毎年60件に及ぶ応募作品の中から15件前後の優秀作品が選ばれている。

応募は、日本全国の建設業から自信作品を2~3点にしぼって提出されるもので、竣工後一ケ年を経た建築に限られているところが注目すべき特徴であり、また、施主(建築主)設計者及施工者(建設業)の三者が同等に表彰されるのは、ひとつの優れた見識として高く評価されている。

建築界における少ない顕彰制度のなかで、僅かに建築士事務所協会が主催する作品コンクールがこれに倣っている以外は、建設業者や建築主まで表彰される制度は見当たらない。

◎日本大学工科校友会誌委員

委員長 有田 耕政 (電気)
委員 木村 吉己 (土木)
委員 西村 哲 (機械)
委員 山田 翠 (化学)

委員 伊藤 和雄 (化学)
委員 羽島 博 (土木)
委員 関根 好文 (電気)

委員 藤田 幹 (建築)
委員 小池 昭一 (建築)
委員 藤原 充雄 (薬学)

編集後記

今年からいよいよ1980年代にはいりましたが本会の卒業生会員も10万3千有余名の多数になっております。

「桜工」第61号には表紙のプラザ習志野（食堂棟）建築業協会賞の受賞について、および昭和4年高工土木科卒業50周年記念クラス会の特別寄稿をいただいたほか、特集として本学理工学部同窓親子二代の原稿をお願いいたしました。

昭和55年3月15日 発行

発行所 日本大学工科校友会

東京都千代田区神田駿河台1-8

電話 03-293-3251 内線 206

振替 東京 3-162710

印刷所 光 星 印 刷 社